

## は し が き

東アジアの平和と安定を確保するためには、同地域の安全保障環境および安全保障上の諸課題を客観的かつ包括的に理解し、自由かつ活発な議論を進めることが肝要である。本書は、そうした議論の題材を、内外の一般読者や専門家に対して提供することを目的として、防衛研究所の研究者が東アジアの安全保障に関する重要な事象について分析したものである。

本書は、東アジアの国・地域別に2013年1月から12月までの1年間を中心に生じた安全保障にかかわる重要な事象について分析している。また東アジアおよびグローバルな安全保障を考える上で重要と思われる中長期的な課題や具体的で興味深い事象についても、トピック章、あるいは章の中に解説コラムを設けて分析している。

本書の構成は、「要約」、「序章」、「各国・地域章」、「トピック章」からなる。「要約」では、各章の主要な論点を紹介する。「序章」では、各国・地域章で分析されるさまざまな事象の背景を理解する一助となるべく、東アジアにおける安全保障環境において顕在化しつつあるトレンドについて概観する。第1章から第7章までの各章では、国・地域別に章を立てて記述する。日本における安全保障政策の新たな展開、北朝鮮の経済および核開発問題、韓国の外交・安全保障政策の動向、中国の国内情勢および対外政策、東南アジアと南シナ海情勢、オーストラリアの国防政策や対アジア政策、ロシアの安全保障政策に見られる対日重視姿勢、試される米国のアジア太平洋へのリバランスなどについて、分析を加えている。さらに、トピック章として、第8章では、アフガニスタンとその周辺地域の安全保障上の諸課題、第9章では、シェール革命が安全保障環境に及ぼす影響について分析している。これら2つのトピックは、近年、国際社会においてグローバルな安全保障上の課題として注目されているものである。

本書の刊行が、日本や地域の国々が直面する安全保障上の課題に関す

る議論を内外において深め、さらに相互理解を促進する契機となること  
ができれば幸甚である。

本書の執筆は、片原栄一（序章）、高橋杉雄（第1章）、阿久津博康・  
室岡鉄夫・江口由貴子（第2章）、門間理良・飯田将史・杉浦康之・和  
田靖（第3章）、庄司智孝（第4章）、石原雄介（第5章）、兵頭慎治・  
秋本茂樹・山添博史（第6章）、菊地茂雄・新垣拓（第7章）、湯浅剛（第  
8章）、秋本茂樹（第9章）が担当した。また編集作業は、一政祐行、  
大西健、田中極子、富川英生、原田有、松浦吉秀、門間理良が担当した。

なお、本書は、防衛研究所の研究者が内外の公刊資料に依拠して独自  
の立場から分析・記述したものであり、政府あるいは防衛省の見解を示  
すものではない。また、本書に登場する人物の役職・肩書は、原則とし  
て記述する事象が生起した当時のものである。

最後に、執筆者ならびに本書の企画・編集・出版にご協力いただいた  
関係各位に対し心から感謝申し上げる。

平成 26 年（2014 年）3 月  
防衛研究所 地域研究部長  
『東アジア戦略概観 2014』編集長  
片原栄一